

2016年4月25日
株式会社野村総合研究所

横浜第二データセンターが M&O 認証を取得

～グローバルな基準に基づく、運用管理の高い品質が評価される～

株式会社野村総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:此本 臣吾、以下「NRI」)が保有する横浜第二データセンター^{*1}が、2016年2月11日、米国の民間団体 Uptime Institute^{*2}が定めたデータセンターの運営基準 Management and Operations (以下、「M&O」)の認証を取得しました。

一般的に企業が情報システムの運用するためにデータセンターを選択する際、建物の耐震性・安全性や設備の可用性・信頼性を重要視します。建物・設備が優れていても、これを運営する組織やプロセスが高い水準で維持されている必要があります。

M&O 認証は、米国の Uptime Institute が定めたデータセンターの管理と運用能力に関する実績あるグローバル基準であり、日々のデータセンターファシリティの運営に関して、「組織対応」「維持管理計画」「スタッフトレーニング」「運営ポリシー」「負荷管理」の観点から評価するものです。

海外のデータセンター事業者は、データセンター運営能力が高いレベルで備わっていることを客観的に示し、他社と差別化するため、積極的に M&O 認証^{*3}の取得を進めています。

NRI の横浜第二データセンターでは、グローバル基準にのっとり運用設計、日々の点検や訓練、監視や運用など、継続的な運営が評価され、2014年12月5日に同認証を日本で初めて取得した東京第一データセンターと同様、高得点での認証取得となりました。

NRI は、2016年4月27日にサービスを開始する大阪第二データセンター^{*4}での M&O 認証取得も計画しています。



M&O 基準の認証マーク (Uptime Institute が発行)

*1 横浜第二データセンター

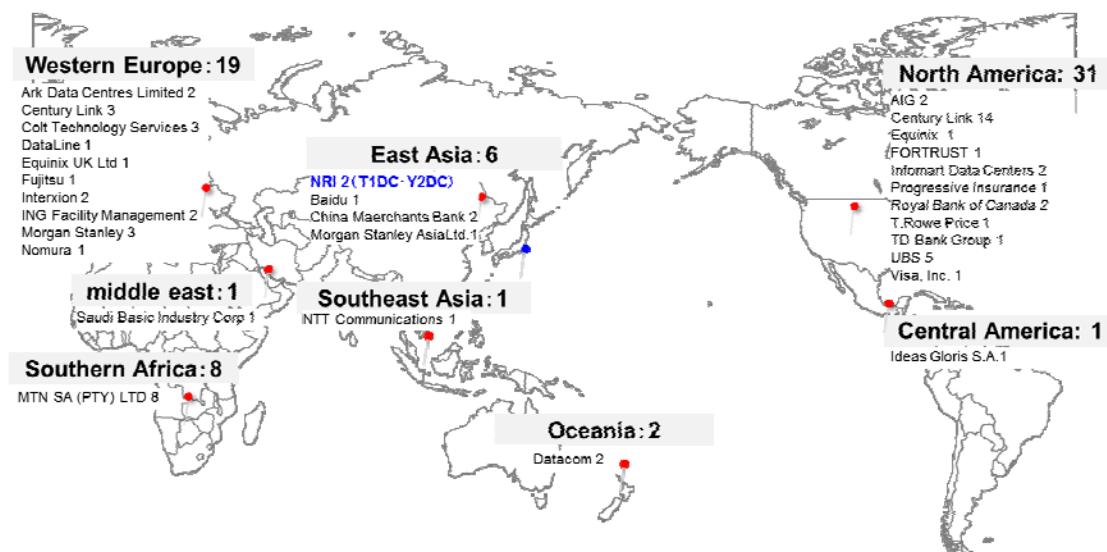
横浜第二データセンターは、高水準の耐災害性、耐障害性を備え、高密度機器の集約にも対応可能な収容能力を備えたデータセンター。



*2 Uptime Institute (アップタイム・インスティテュート) :

データセンターのパフォーマンスと効率性向上の支援を目的として、データセンターの設計、構築、運用に関する研究、教育、およびコンサルティングサービスを提供する民間団体。世界的に著名な第三者機関として、データセンター設備の TIER 基準の作成や、M&O 認証を運営し、世界各地の拠点（米国、メキシコ、コスタリカ、ブラジル、イギリス、スペイン、UAE、ロシア、中国、台湾、シンガポール、マレーシア）を通じてグローバルに活動を展開している。

*3 M&O 認証取得済みデータセンター数 (2016年2月現在) :



M&O 認証取得データセンターは、全世界で現在 69 ヶ所
横浜第二データセンター (Y2DC) は東京第一データセンター (T1DC) に続く、日本二番目の M&O 認証

*4 大阪第二データセンター 2016年4月27日開業

http://www.nri.com/jp/news/2016/160303_1.aspx



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 松本、潘

TEL : 03-6270-8100 E-mail : kouhou@nri.co.jp

【データセンターに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 データセンターサービス本部

DCマネジメント部 上野、出雲崎

TEL : 045-336-8038 E-mail : mo-toiwase@nri.co.jp

【ご参考】

●M&O 認証における主な評価項目は、以下の通りである。

M&O評価分類	主な評価項目
スタッフと組織	<ul style="list-style-type: none"> ・データセンター運営に必要な職務・職責が明確で、体制が整備されていること。 ・職務・職責に必要な「資格」が定義され、その一覧や教育計画が整備されていること。 ・事故や設備障害時の連絡ルートが整備され、必要な体制が確保できること
保守・メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・予防保守・設備故障時のオペレーション手順が整備されていること。 ・変更管理とその履歴が保管されていること。 ・予防保守が計画的に実施されていること。また、その記録が保管されていること。 ・検査点検機器、テスト機器のメンテナンスが実施されていること。 ・設備機器のライフサイクルが管理され、適時、更改・保守されていること。 ・不具合発生時の原因分析・対策立案をおこなう仕組みが整備されていること。 ・コンピュータ室にゴミや可燃物等が放置されないよう、管理されていること。
教育・トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・社員・スタッフ・ベンダーを含めた、定期的な教育・訓練がおこなわれていること。また、その記録が保管されていること。 ・OJTプログラムが用意され、新規に運営に関わる要員に適用されていること。
データセンター運営計画とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資計画があり、予算と実績の管理がおこなわれていること。 ・IT部門と連携し、コンピューターームの収容プランが機能していること。 ・設備運営に必要な文書が整備され、常に更新され、利用可能な状態になっていること。 ・IT機器の設置や撤去の情報が管理され、電力・スペース・空調のキャパシティが予測・管理されていること。
データセンター運営の状態・状況	<ul style="list-style-type: none"> ・重要設備の閾値が設定・監視されていること。 ・設定値の妥当性やポリシーが明確であること。 ・設定値変更や操作に関する権限が明確であり、管理されていること。